小学校　第2学年
A表現⑴ア，⑵ア，　B 鑑賞⑴ア

題材名　だんボールに入ってみると！？

実践校
垂井町立府中小学校
授業者　久古　春輝
実践時期　2学期
全2時間

つながりを生かす

○「もの」とのつながりについては，導入で大きな段ボールに入る，かぶるなど，体全体で材料に関わることを通して，その大きさや形の変化，質感などを味わい，児童がやりたいことのイメージを広げることができるようにした。

○「ひと」とのつながりについては，仲間と協力してつくったり，できたものを交流したり，造形的なよさを感じ取ったりして，表現や行為の面白さに気付いたり，自分の見方・感じ方を広げたりできるようにした。

○「ちから」とのつながりについては，児童の発想力・構想力を高めるため，活動中も様々な大きさ・形の段ボールを児童が自由に活用できるように並べておき，表したいイメージをもとに組み合わせるなどできるようにした。

題材の流れ

第１時

大きな段ボールに体全体で関わり，その特徴を感じたり，発想や構想を繰り返し，切る，つなぐなどの技能を働かせてつくったりすることを通して，思考力，判断力，表現力等を育てる。

活動は体育館で行った。児童の体が入るような大きさの段ボールを１人１つ以上行き渡るよう用意し，児童が自由に選べるようにした。また，小さめの段ボールも用意し，必要に応じて組み合わせたり，つけ加えたりできるようにした。道具は段ボールカッター・クラフトテープを使用し，安全指導を徹底した。

第２時

仲間と関わり合いながら活動を楽しむことで，自分から仲間とつくる喜びを味わったり，仲間の表現の工夫や楽しさを感じ取ったりできるようにする。

児童の工夫した点を，教師が他の児童にも聞こえるように価値付けたり，児童がつくったもので一緒に遊んでみるように促したりすることで，児童の見方や感じ方を広げられるようにした。

終末では，できた形について全体に交流する機会を設け，活動を振り返るようにした。

ポイント１

段ボールに触れる前に，「この段ボール，どうしてみたい？」と問いかけ，入る・かぶるなどの関わり方を児童の言葉から引き出して板書し，活動の見通しをもつようにした。

穴をあけてみたい！　つなげたい！
体がすっぽり入ったよ。カメみたい。

ポイント２

作った作品は，最後に元の形に戻すことを事前に伝え，１つの作品にこだわらずチャレンジする姿を価値付けることで，思い付いたことを次々に試していけるようにした。

ここに柱を立ててみよう。
小さい段ボールで屋根をつくったよ。
中から見ると光が入ってきれい。

ポイント３

道具・材料はゆずり合って使う，仲間のつくったもので遊ぶときは許可をとるなど，互いを尊重しながら活動できるよう指導した。

作品例

授業を終えて

大きな段ボールに体全体で関わることは，教師の予想以上に児童の想像を掻き立て，意欲的に取り組むことができた。中に入る・かぶるなどの単純な関わりから始まり，家や汽車，トンネルなどに見立てて発展していく様子から，児童の発想の広がりを見て取ることができた。

形がすぐに思いつかない児童も段ボールをかぶってじっくり考えたり，手を加えてできた形を肯定的に捉えたり，仲間と協力したりして造形活動自体を楽しむことができていた。今後もこうした造形遊びを通して，造形的な見方・考え方を伸ばしていきたい。